

玉藻公園、史跡高松城跡

高松港の近くにある玉藻公園は、江戸時代（1603 年～1867 年）にこの地域を治めた松平家の本拠地・高松城の跡地にあります。16 世紀の城は、現在残っているいくつかの構造物が建てられた 1640 年代に再建され、大幅に拡張されました。これには、月見櫓や水手御門、一部の石垣、また瀬戸内海から水を汲む堀などが含まれます。約 30 分で周る舟に乗って、堀を探索したり、魚に餌をやったりすることができます。このツアーでは、城の本丸がかつて立っていた高台を見ることができます。長年の発掘と修繕を経て 2013 年に公開された高台からは、高松の街や、遠く瀬戸内海の島々を眺めることができます。

公園内のもう一つの注目すべき建物は、披雲閣です。高松藩の元領主の子孫である松平家の迎賓館および別邸として 1917 年に建てられました。その伝統的な日本建築は、当時の慣習として、西洋の影響と建築技術を取り入れています。重要文化財に指定された披雲閣は、現在では茶道、コンサート、写真撮影などのイベントにレンタルできます。建物の見どころは、約 280 平方メートルの大書院や、松の木とソテツのある石庭などです。